

問題【国語】

次の各文の下線部について、それぞれの品詞名を下のア～エの中から選びなさい。

- (1) 彼は大きい家に住んでいる。
- (2) 私は大きな葉っぱを拾った。
- (3) 日本には豊かな自然がある。
- (4) 食事をする時間がない。

ア. 動詞 イ. 形容詞 ウ. 形容動詞 エ. 連体詞

豆知識 雑学コラム

連体形と連体詞

今回は連体形と連体詞について、見ていきましょう。今回の問題に出した文の中で、(1)の「大きい」は「家」を修飾していて、また(2)の「大きな」は「葉っぱ」を修飾しています。この「大きい」や「大きな」のように後ろにくる(＝連なっている)名詞(＝体言)を修飾する言葉を連体修飾語といいます。動詞や形容詞のように活用がある言葉の連体修飾をする形のことを連体形といい、活用のない連体修飾をする言葉を連体詞といいます。では、問題について確認していきましょう。

(1)の「大きい」は形容詞で、(2)の「大きな」は連体詞です。「大きな」は形容詞の「大きい」を活用した形では？ と考えた人も多いと思います。この疑問について考えるために、他の形容詞の連体形についてみていきましょう。「山」を「高い」で修飾すると「高い山」、「料理」を「辛い」で修飾すると「辛い料理」というように、形容詞の連体形は「～い」の形になります。一方で、「高な山」や「辛な料理」とは言わないですね。このように「大きな」のように形容詞から「～な」に変化して連体修飾している言葉は他に「小さな」と「おかしな」しかなく、多くの形容詞に共通する活用のきまりとは言えません。そのため、国語の文法では「大きな」を形容詞「大きい」の活用したものとは考えずに、活用がなく連体修飾をする言葉であることから連体詞「大きな」として扱います。

つぎに(3)の「豊かな」は形容動詞「豊かだ」の連体形です。「大きな」と同じで「～な」で終わっているから連体詞では？ と思ったら、さっきと同じように今度は他の形容動詞の連体形を考えてみましょう。「人」を「親切だ」で修飾すると「親切な人」、「問題」を「簡単だ」で修飾すると「簡単な問題」となり、形容動詞の連体形は「～な」の形になることが実感できますね。このように形容動詞は共通して「～な」で連体修飾をするため、形容動詞の連体形は「～な」という形になるといえます。「～な」で連体修飾をしているときは「～だ」で言い切れるかどうかを考えて、言い切れる場合は形容動詞の連体形だと考えるようにしましょう。

今日は連体詞と連体形を見ていきました。連体修飾語と言っても、いろいろな品詞があることがわかったと思います。日頃、当たり前に使っている日本語でも、実は複雑なルールにしたがっているのだとわかると、自分はすごい難しいものも使いこなせるんだと感心してしまいますね。

【解答】

- ア (4) ウ (3) エ (2) イ (1)